

できることを

いわぬまにしちゅうがくこう
岩沼西中学校二年

よしおか
吉岡

あやの
彩乃

今年^この七月、熊本^{くまもと}県を中心^{ちゅうしん}に九州^{きゅうしゅう}や中部^{ちゅうぶ}地方^{ちほう}など日本^{にっぽん}各地^{こくじ}で、令和^{れいわ}二年^{にねん}七月^{しちがつ}豪雨^{ごうう}が発生^{はっせい}しました。これまで^{こゝろ}に経験^{けんけん}したことのないほどの大雨^{おおいあめ}となり、一時^{ひととき}七県^{しちけん}に大雨^{おおいあめ}警報^{けいほう}が出^でされたり、球磨^{くまがら}川^{がわ}や筑後^{つくご}川^{がわ}などの氾濫^{はんらん}や土砂^{どさ}災害^{さいがい}が起きたりするなど、大きな被害^{ひがい}をもたらしました。鹿児島^{かごしま}県の鹿屋^{かぐや}市^しでは、五日^{ごにち}から六日^{むかひ}にかけての二日間^{ふたにちかん}の最大^{さいだい}一時間^{いちじかん}降水量^{らんじょうりょう}は百九^{ひやくきゅう}・五ミリ^{ごミリ}を観測^{くわんそく}し、住家^{すまが}被害^{ひがい}は一万八千^{いちまんぱちせん}三百八十棟^{さんぱちじゅうはちとう}、死者^{しよじや}及び行方^{ゆきかた}不明^{ふめい}者は八十六人^{はちじゅうろくにん}にもなりました。もとの形^{かたち}が分からないほどめっちゃくちゃにな^なった街^{まち}。一面^{いちめん}海^{うみ}のようにな^なって、必死^{ひっし}に何か^{なににか}にしがみつ^{みつ}いて助け^{たすけ}を求め^{もとめ}る人々^{ひとびと}の姿^{すがた}。連日^{れんじつ}テレビ^{てれび}や新聞^{しんぶん}で報道^{ほうどう}される悲惨^{ひつぱん}な様子^{ようす}を見て、私は^{わたし}胸^{むね}が痛^{いた}くなりました。毎年^{まいねん}のよう^{よう}にくり返^{かえりかえ}されるこの痛^{いた}ましい状況^{じょうきょう}を変^かえるため^{ため}に自分^{じぶん}には何か^{なににか}できること^{こと}があるのか^{あるのか}と考え^{かんが}えました。そこで^{そこで}日本^{にっぽん}の土砂^{どさ}災

害に関することを調べてみました。

日本は、世界的に見ても特に自然災害が多い国といえるそうです。というのも、日本は急峻な山地や谷地、崖地が多い上に、地震や火山活動も活発であるなどの国土条件に、台風や豪雨、豪雪に見舞われやすいという気象条件が加わっています。そのため、土石流、地すべり、かけ崩れなどの土砂災害が起きやすいのだそうです。特に、都市化など近年の土地利用の変化と相まって、土砂災害による

犠牲者は自然災害による犠牲者の中で大きな割合を占めているとのことでした。また、日本に限らず近年世界中での地球温暖化が進んでおり、それによる気温の上昇で台風がより発達しやすくなっているという点も災害が多い原因の一つです。つまり、いろいろな条件が重なっている日本は災害が起こりやすいといえます。

では、そんな国で暮らしていく上で、災害に備えるために私たちにできることは何でし

よ
うか。私が思い浮かんだことは、土砂災害
ハザードマップを確認することです。土砂災
害ハザードマップとは、それをれの市区町村
が作成しているマップのことで、土砂災害警
戒区域などの位置や避難場所、避難経路など
に関する情報が記載されています。私は今ま
であまり注意して見たことはなかっただけで
が、今回調べてみて、自分の住んでいる地域
のハザードマップを確認すると安心だと思
いました。また、日頃から身のまわりをよく
見て危険なところを確認しておくことも大事
だと思えます。いつも通っている道端で安全
だと思っ、ていても、よく見ると傾いていたり、
崩れかけていたりするなど、土砂災害が起き
る前兆が見られることがあります。普段から
確かめる習慣をつけておくと良いと思います。
そしてこれらは、一時的に行っても効果は薄
いのです。気象状況や年月が経つことで変化し
ていくものなので、定期的に確認することが
大切です。このように二つ紹介しましたが、

これらはほんの一例にすぎません。他にも私
たちにできることはあります。それを考える
ことから防災は始まるのだと思います。

私たちの力では気象状況は変えることがで
きません。ですが、災害に備えるためにでき
ることはあります。いつ来るかわからない災
害に備えるために、今できることから始めた
いです。